

求める会ニューズ No. 949

1月全体会報告

1月17日(水) 10:00~12:30

検討事項

1. 収穫感謝祭 来年度開催の検討

(これまで出た意見) ①このまま続ける②規模を縮小して続ける③お手伝いを頼むのが大変④高齢化で続けるのは無理なのでやめる(会計より) 収入は80532円あった。この収入はありがたい。

挙手の結果「続けた方がいい」が多数だった。

(当日の主な意見)・無理をしてお手伝いを頼まなければならないなら止めた方がいい。

・収穫感謝祭は求める会の運動の根幹だ。大変な豚汁作りを止めて、生産物の販売などで生産者との交流を図るようにしたらよい。

・準備を含めて大変なことは分かるが、感謝祭は楽しい。1年に1度くらいはがんばってもいいのでは。・(会員係より) 収穫感謝祭はイベントがいろいろあるので、続けるのであれば的を絞ってやってほしい。・代表、副代表がいなくて、会員係の負担が大きい。全体を見渡せる人が必要だ。

来年度予算を組むまでに、収穫感謝祭をどうするか、決める。

2. 求める会の今後について(前回に引き続き、高齢化のなかで今後の活動形態をどのようなかたちにするか等を検討) また2月からの全体会と部会で次期代表について検討

(大野代表より) 高齢化と会員減少、新しい会員の獲得が難しいなかで、今後の「求める会」をどうしていくのか、タイムリミットを設けて話し合いをしてほしい。「物流はあしの会に移して、求める会は活動だけをつづける」というD案を含めて、会計の現状、プー

ル金の使い方、新しい活動の形などについて、部会を毎月開き、一般会員にも参加をお願いして、全体会で討議していきたい。(代表の提案を了承)

(逆瀬川G) 動ける会員が仕分けをして取りに来られない人に配達する体制があるので続けられている。求める会全体の活動を考えても、体力があるうちに、今後どうするか決めてほしい。

次期代表については時間の関係で話し合われなかった。

報告事項

【生産者担当】 ・野菜…1月のコンテナ数は、大コンテナ87、小コンテナ268、計355

・畑のようす…葉物が少なく、ほうれん草青梗菜、ターサイなどは1月いっぱい終わりそう。例年は白菜、ブロッコリー、カリフラワーでいっぱいになる時期だが、今年はこれらの野菜は出てこない。出荷に際してできる限り種類をそろえるように取り組んでいるが、場合によっては赤人参と西洋人参が重なることもご了承ください。

一色さんのキウイはおいしかったとの感想。

・卵…順調に卵を産んでいる。2月最終週に40羽の廃鶏がある予定。

・麴注文 計264kg

・大豆注文 161kg

・果物…レモン、ミカンが余っているので追加注文を受け付ける。

(会員より)・1月のミカンの皮がしわしわで、あまりにも汚い。水分も少ない。・レモンは青いものがきたが、ママレードにすると苦みが出る。黄色くなったものが欲しい。

【会員担当】 会員数226名(12月2人退会) 2月末~3月に生産者を囲んで地域集会が開かれる。(日時・会場については4面参照)

【事業部担当】宮島食品の豆腐類はあしの会でも扱っているが、全体会での販売も続けてほしいとの要望で続けることに。ワーキングたんばのパンは、宅急便が混む8月、12月はやめる。

【広報・庶務担当】ニュース印刷日 1月29日（月）10時より

【学習・研究担当】全体会后、13:30より阪神・市民放射能測定所代表の安東克明さんの話を聞く。多数参加を。（内容は3面に掲載）

【渉外担当】・第46回日本有機農業研究会全

国大会・総会 3月9日（金）～10日（土）
国立オリンピック記念青少年センター

・日本有機農業研究会 近畿ブロック幹事会
2月3日

・4月1日（日）～2日（月） なのはな祭に合わせて出雲の影山製油所を訪問。バス定員30人を集めなければならない。

お知らせ 2月14日（水） 部会、2月21日（水）全体会 司会・花岡、当番・東山、岡部、記録・小原

食料環境セミナー報告

「女性と子どもたちに笑顔を取り戻すためのWACCA（わかか）の活動」

12月20日（水）10:30～12:00

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

理事・茂木 美知子さん

わかか（WACCA）を主催されている茂木さんにお話を伺いました。わかか？ Women And Children Care Center、さまざまな困難をかかえ孤立しがちな女性、シングルマザーとその子どもたちが、安心できる場、仲間に出会い、ホンネで話せて、自分らしさを取り戻せる、そんな居場所。わかかとはそういう所を目指して長田区で作られました。

【わかかの目的と事業としての4つの柱】

女性が安心・自信を取り戻し、元気になれる居場所づくり。

女性のための相談・各種講座や仲間づくり、親子で交流。

子どもたちが夢を実現できるような生き方を選ぶための学習支援。

女性と子どもたちが安心して集い、学び、仲間づくりが出来る場。

今回のお話は特に「女性と子どもの貧困を考える」ということで、「貧困」について伺いました。子どもの貧困率は、子ども7人のうち1人が貧困、ひとり親家庭の貧困率は50.8%になるそうです。貧困には実にさまざまな問題が伴っています。ひとり親世帯では経済

的に苦しく、子どもの教育費が重くのしかかります。親の方も長時間労働、ストレス、孤立、無力感、不十分な衣食住とつらい状況です。子どもたちも、見た目は普通と同じようでも、隠された貧困がもたらす格差が随分影響を与えて大変なことだと感じます。

わかか塾が2013年から始まり、今はたくさんさんのボランティアの方の協力を得て、一対一で子どもに寄り添い、子どもたちが大人への信頼をとりもどしています。夢を持てるようになったかな？ シングルマザーたちも仲間がいることで勇気づけられ、時には弱音をはきながらも資格を取る勉強をしておられます。

わかかが「私たちにできること」として掲げておられるのは、経済的なことだけではなく、子どもも大人も一人ぼっちにしないこと。

困った子どもは「困っている子ども」 困った親は「困っている親」、としめくくられました。

皆様、お時間あればわかかのホームページへどうぞ。 <http://wn-kobe.or.jp/>

（センターG 岡部真理子）

次回食料環境セミナー

「若者たちの食卓－食写真から見える日常」

2月28日（水）10:30～12:00

大正大学心理社会学部人間科学科

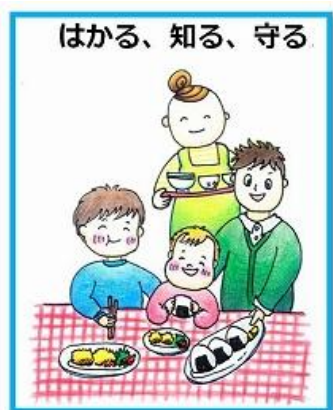
教授 長谷川 智子 さん

測定から見える放射能汚染

大気中に放出された放射性物質による健康被害を心配して福島から避難してきた方々との交流会がきっかけで、阪神・市民放射能測定所は誕生しました。安東さんは交流会で、お腹の赤ちゃんが心配で家族に反対されても避難してきた女性の話を聞かれました。放射能に関する意識の温度差を感じ、関西の人々は汚染の恐ろしさを正しく認識できていないという思いから、避難者と一緒にこの問題を考えていきたいと2013年5月に西宮市のコミュニティ・スペースNPO法人「つむぎの家」の一角を借りて開設されました。



埃や食品として体内に入った放射性物質はわずかな線量でも長期にわたり周囲の細胞にダメージを与えます。目に見えない放射性物質を数値化することにより、関西地域でも放射能の危険と無関係ではないことを、持ち込まれた野菜や土壌を測定し結果を公開し報告しています。静かな口調ながら、内部被ばくの恐ろしさを再認識させられたお話でした。また講演後、会員から基礎的な知識から説明されたので、今まで理解できなかったベクレルやシーベルトの言葉の違いがわかって良かったという感想が寄せられました。



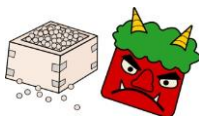
多岐にわたる切り口からの説明でしたが、子どもたちの食の安全を確保するためには、できるだけ地域の有機栽培農家さんをつなぎ、放射能を測定し安全な食材を確保していきましょう、測定所は、そのお手伝いをしていきますと強調され、資料には当日のパワーポイントのURLも記されていて、何とか放射能の危険性についてもっと知ってほしいというお気持ちがあふれていました。

最後にこれから始めようとしている活動を紹介されました。生産者が希望するなら、圃場のたい肥や土壌を測定し、検出されなかったらノンベクレル（ベクレルは放射線の測定単位の1つ）シールで消費者にそれをお知らせできるようにしたいそうです。地理的に離れているせいで、放射能の恐ろしさを当事者として実感しにくい私たちは、それが決して他人事ではないことを思いおこすためにも興味深い活動だと思いました。市島町有機農業研究会の生産者が賛成していることを紹介され、「求める会」は阪神・市民放射能測定所の会員であり、検査料は無料の特典がまだたくさん残っていますよ、と活動への協力を希望されました。福島では原発事故が意図的に風化されようとしていることに言及され、折しも私たちが支援先の検討に入っているところでしたので、その情報も共有できました。安東さんのシールの活動についても皆さんと一緒に考えていきましょう。

(潮見グループ 大野貞枝)

2月のカレンダー

2月14日(水) 部会
 2月20日(火) 自動引き落とし日
 共同購入申込締切日
 2月21日(水) 全体会
 2月28日(水) 食料環境セミナー
 午後：ニュース印刷



麴の配送日

火コース 2/13
 木コース 2/8
 金コース 2/9

姫路の橋屋さんに麴加工をお願いしています。麴1kgは、実際は1kgより少し少なくなります(加工すると軽くなります。)

2月全体会検討議題

1. 今後の収穫感謝祭について
2. 今後の会の活動の進め方について
3. 福島支援の送付について

温州みかんについて

温州みかんは、7回目で終わります
 8回目はありません。ご了承ください。
 (果物係)

冬の地域集会

地区	日時	会場	連絡先
東地区 (宝塚・西宮・尼崎・芦屋) ★生産者を囲んでの食事会に参加される方は今田まで連絡してください。	2月24日(土) 10:00~12:00	西宮公民館401号室 阪急西宮北口駅下車 南改札口より徒歩3分 プレラにしのみや4F	池田 今田
中地区 (東灘・灘・中央・兵庫・長田)	3月2日(金) 10:00~12:00	神戸学生青年センター 阪急六甲駅下車 北へ 徒歩3分	小浦
西地区 (須磨・西区・北区・垂水・明石・加古川・高砂))	2月23日(金) 10:00~12:00	アスパシア明石8F 801B JR明石駅下車 東南へ徒歩3分	村川

市島の生産者が出席されますので、是非ご都合のよいところへ参加してください。来られる生産者は未定です。

鶏肉の配送について

2月末に廃鶏が出ます。
 配送は3月1日(木)と3月2日(金)になります。
 申し込みの変更がある方は、2月13日(火)までに事務所へ連絡してください。



TEL 078-822-0810 (火・金)
 FAX 078-822-0810、078-842-2430

食料環境セミナー

「若者たちの食卓一食写真から見える日常一」

2月28日(水) 10:30~12:00
 大正大学心理社会学部人間科学科
 教授 長谷川 智子さん
 会場：神戸学生青年センターホール
 参加費：600円
 主催：(公財) 神戸学生青年センター